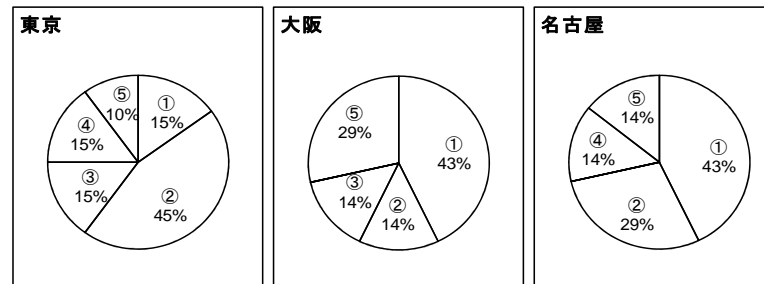


セミナーへのご参加、そしてアンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

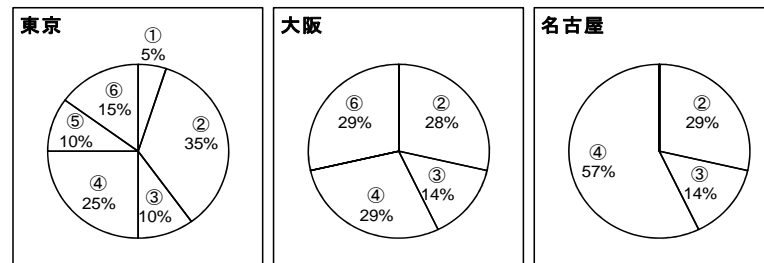
Q1. 債券投資のニッチ戦略について、一番近いものを、一つだけ、お選びください。

	東京	大阪	名古屋	合計
① 債券投資のニッチ戦略の重要性は認識しており、現在、積極的に投資を行っている。	3	3	3	9
② 現在、投資は行っていないが、このような魅力的な戦略があるならば、今後、検討したい。	9	1	2	12
③ ニッチであるが故に、市場の広がりや深さなどの観点から、現在、投資は行っておらず、また、今後も検討する予定はない。	3	1	0	4
④ その他	3	0	1	4
⑤ 無回答	2	2	1	5
合計	20	7	7	34



Q2. 東京電力福島第一原子力発電所の事故直後において、東京電力社債を保有していたとして、ご自身ならば、どのような投資判断をしたでしょうか。一番近いものを、一つだけ、お選びください。

	東京	大阪	名古屋	合計
① 値段のいかにかわらず、即時に売却する。	1	0	0	1
② 即時に売却すれば、極端に低い価格となるのは自明だから、売却を前提とするも、しばらくは、様子を見る。	7	2	2	11
③ 法律上、東京電力の破綻はあり得ないと信じて、保有し続ける。	2	1	1	4
④ 破綻の可能性はあるにしても、先取特権をもつ特殊な債券なので、売却損の確定を急ぐよりも、保有し続ける。	5	2	4	11
⑤ その他	2	0		
⑥ 無回答	3	2	0	5
合計	20	7	7	34



Q3. 現在の東京電力ホールディングスの社債と、子会社で一般送配電事業に特化した東京電力パワーグリッドの社債、および、同じく子会社の東京電力フュエル&パワーと中部電力とで共同設立し、燃料・火力発電事業に特化したJERAの社債が発行されるとしたら、ご自身ならば、どのような投資判断をされるでしょうか。一番近いものを、一つだけ、お選びください。

	東京	大阪	名古屋	合計
① 東京電力ホールディングスは、原子力事故の問題を直接抱えているとはいえ、東京電力グループの親会社なので、ホールディングスの社債に投資する。	2	0	0	2
② 東京電力パワーグリッドは、今後、実質的にホールディングスの原子力関連費用の多くを負担することになるが、送配電という収益性が非常に安定した事業に特化しているので、パワーグリッドの社債に投資する。	4	3	1	8
③ 原子力事故の問題に関連しないJERAの社債へ投資する。	5	1	5	11
④ いずれも日本を代表する巨大公益企業のグループ会社であるが、各社ともに原子力関連の課題を有していることには違いなく、潜在的なリスクが高すぎることから、どれにも投資はしない。	3	1	1	5
⑤ その他	2	0	0	2
⑥ 無回答	4	2	0	6
合計	20	7	7	34

